



# 自動車OEMの物流プラットフォーム 構築の取り組み

株式会社SUBARU  
CLO 村田眞一  
Feb 24, 2026

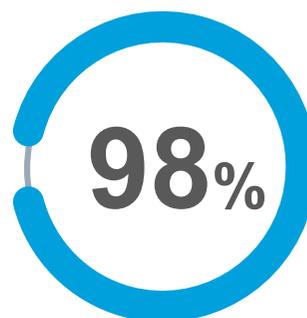
# Today's Agenda

1. 企業概要
2. 自己紹介／組織体制
3. 全体概要
4. 物流プラットフォーム構築 ～取り組み事例
5. さいごに

# 1. 企業概要

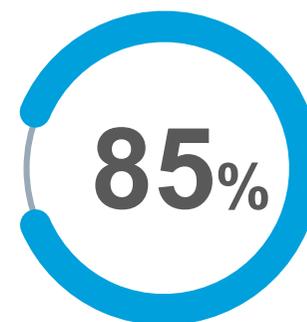
会社名	<b>株式会社 SUBARU</b> (SUBARU CORPORATION)
創立	1953年（昭和28年）7月15日 （創業：1917年（大正6年5月））
代表者	代表取締役社長 大崎 篤
主な事業内容	【自動車】自動車ならびにその部品の製造、販売および修理 【航空宇宙】航空機、宇宙関連機器ならびにその部品の製造、販売および修理
資本金	1,538億円（2025年3月31日現在）
従業員総数	17,885人（連結会社 合計37,866人） （2025年3月31日現在）

自動車 4.6兆円



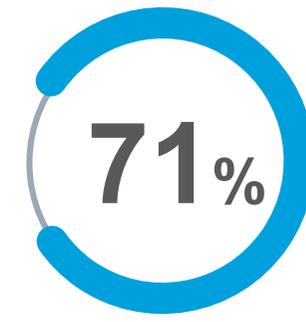
\*FYE2025 売上収益

SUV 82.0万台



\*FYE2025 小売台数

米国 66.2万台



\*FYE2025 連結販売台数

## 自動車製造拠点



〈ありがたい姿〉  
笑顔をつくる会社

## 2. 自己紹介／SUBARU物流組織体制

### 村田 眞一

株式会社 SUBARU 執行役員  
Chief Logistics Officer（最高物流責任者）  
物流本部長

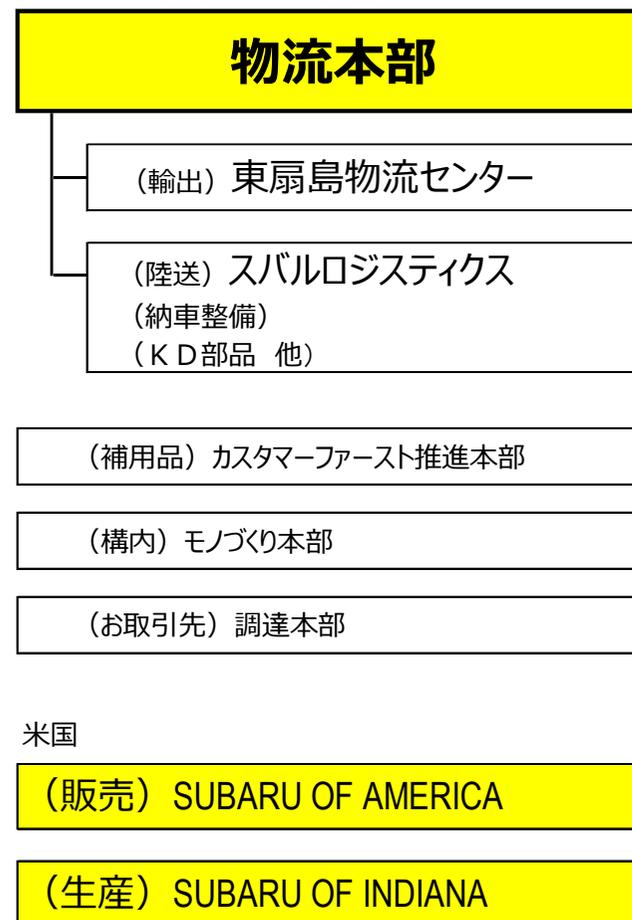
1990年富士重工業（現SUBARU）に入社

工場における生産管理、アフターサービス領域の支援、  
広報、経営企画、販売会社経営、人事等を経験

2021年から執行役員として、渉外、法務、知財、  
リスクマネジメント、サステナビリティ等を担当し

2025年4月より現職

### SUBARUの物流に関わる組織



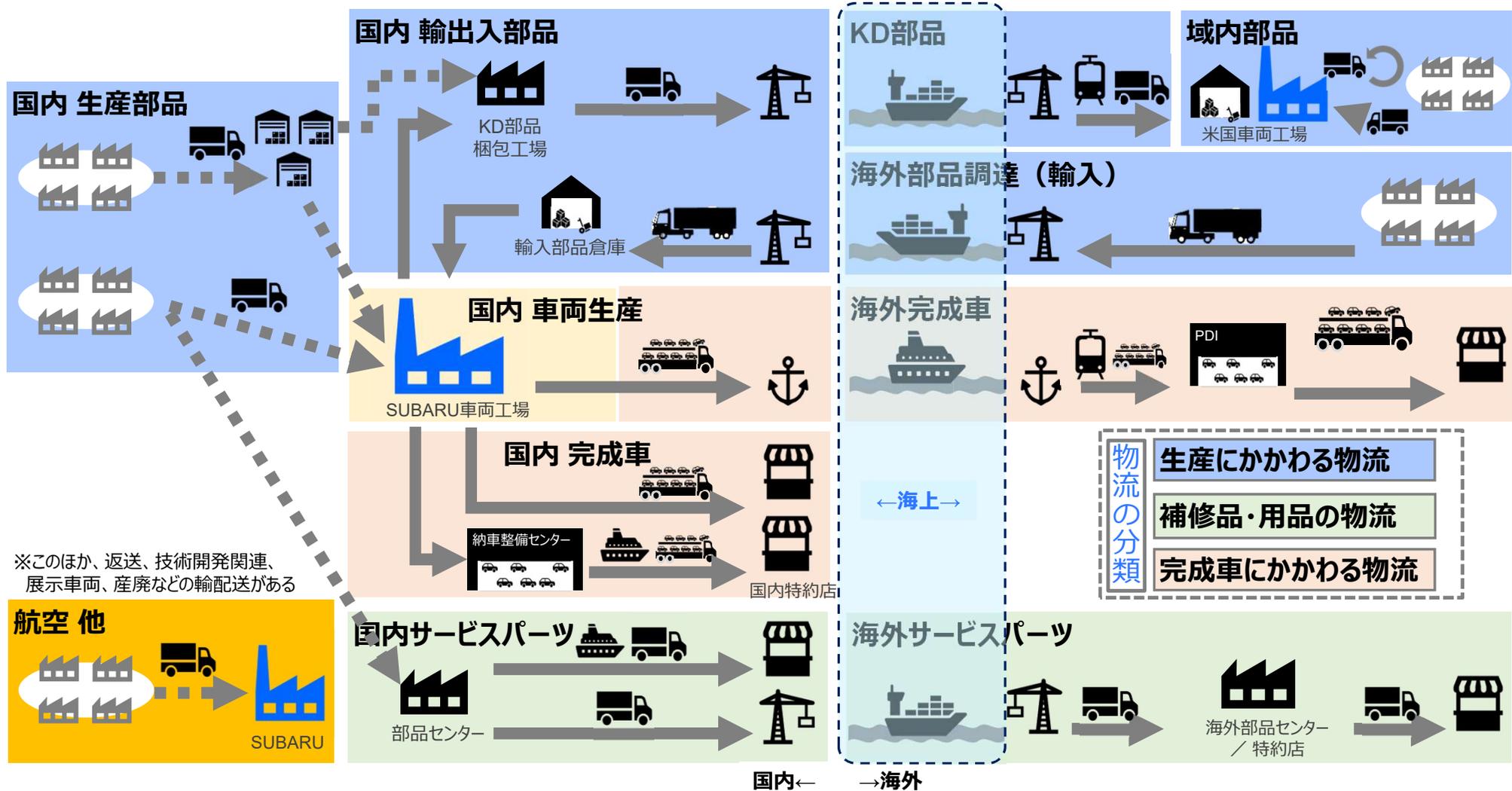
\* 2025年4月  
新設

米国

(販売) SUBARU OF AMERICA

(生産) SUBARU OF INDIANA

# 3. SUBARUの物流 全体概要



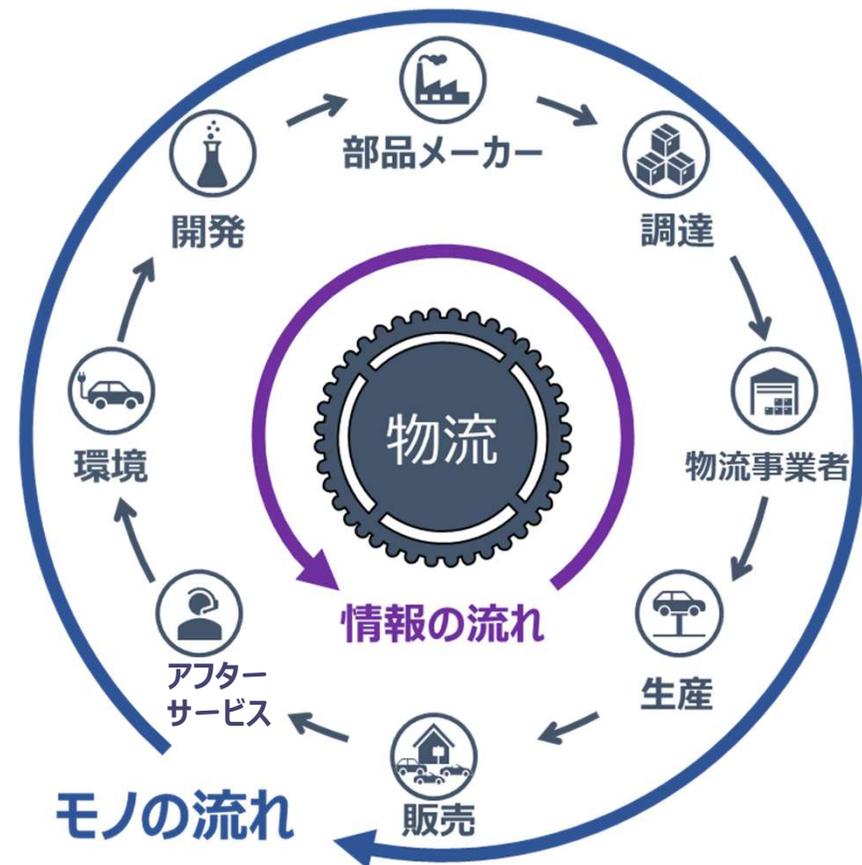
## 4. SUBARUの物流プラットフォーム構築

### ありたい姿

- リーンでシンプルな物流を目指す
- 従前の水平型を有機的な結合型に変える
- 仕組みとしての“物流プラットフォーム”を構築していく

(考え方)

- ・硬直的なプロセスを変える
- ・新たな取り組みで輸配送の多様性を確保する（リスクヘッジ）
- ・物流QCDのバランスに柔軟性を持つ
- ・全社視点での総原価削減につなげる





## 4. SUBARUの物流プラットフォーム構築 ～取り組み事例

### 生産部品物流の最適化 (荷役負担の軽減)

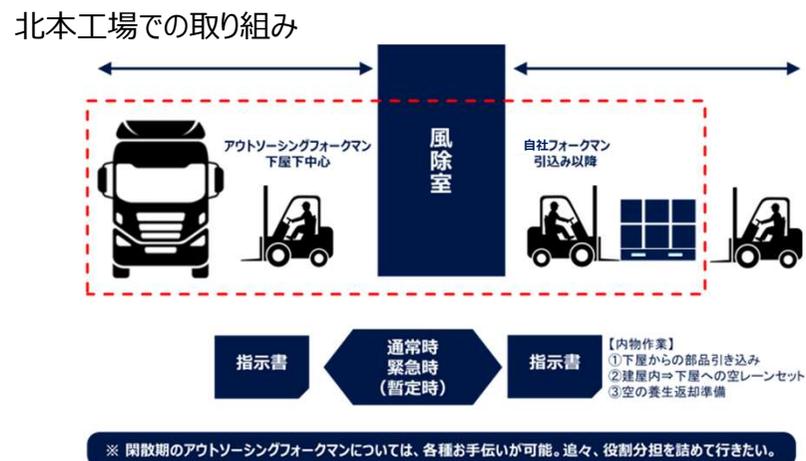
#### ・自主荷役廃止

北本工場にて自社（工場側）で  
フォーク作業者を配置、ドライバーによる  
荷下ろしを廃止し、**荷役時間を削減**

#### ・門前倉庫や既存工場の一部での部品の 納入にも**拡大**中

敷地内の輸送車両の整流化にも寄与し、  
グループ全体での標準化を目指す

#### ・ドライバーのフォークリフト免許が不要となり 荷役時のさまざまな精神的負担を軽減、 人財確保やダイバーシティ化にも効果期待



#### AGVの活用



#### 歩車の導線分離

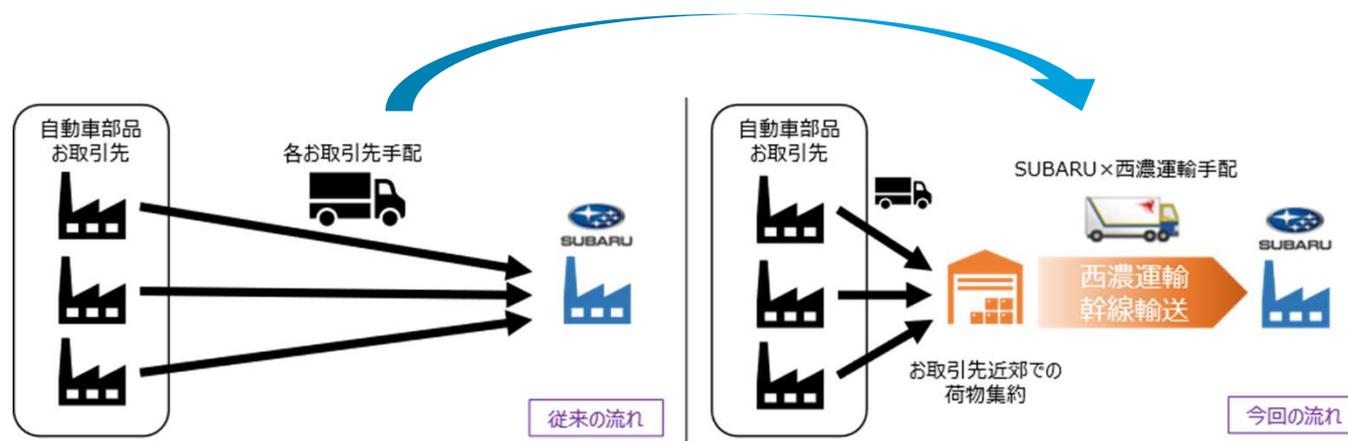


歩行帯をまたいでフォークリフトが通り  
部品を搬送するレイアウトではなく、  
歩車分離柵や輪止めなどでフォーク  
リフトの行き来を制限し安全性を向上

## 4. SUBARUの物流プラットフォーム構築 ～取り組み事例

### 生産部品物流の最適化 (幹線物流の活用)

- 群馬製作所で生産するBEV（バッテリー式電気自動車）用の自動車部品のトラック輸送において長距離**混載**輸送を活用
- 西濃運輸との協業（連携先の多様化）
- 群馬製作所BEV生産開始（2026年2月）に合わせて実施
- 中京地区の取引先からの自動車部品を西濃運輸 豊川支店に集荷、西濃運輸の全国輸配送網を活用し**積載効率を向上**させ**長距離輸送を効率化**



## 4. SUBARUの物流プラットフォーム構築 ～取り組み事例

### 完成車輸送の効率化

- ・営業部門の壁（海外・国内）を取り払い、モータープール（車両保管場所）を最大限有効活用できる運用体制に変更  
⇒モータープール用の借用地面積を圧縮、賃貸物件は返却することでコストを削減
- ・経営ダッシュボードで出荷進捗が見える化
- ・トヨタ自動車と完成車輸送の**共同輸配送**に着手、本領域は協調領域として業界全体で検討を進めるべき課題のひとつ



## 5. さいごに

### CLOとして

- ・まずは「なんちゃってCLO」からの脱却
- ・でも、物流の現場経験がない立場からCLOに就任したからこそ、新しい目線で見たと時の気づきを大事にしたい
- ・これまでは各現場関係者にオペレーションの詳細を「長年の信頼関係」で任せきりに・・・
- ・『ローカル最適から全体最適』  
物流費の抑制だけでなく、効率を上げられる余地があると思慮、地道に検討を重ねていく



**Thank You!**



**SUBARU**